

「学校教育目標」と「令和6年度重点目標」に向けて

学校教育目標 「自ら学びの力を高め、 人間性豊かに生きる児童の育成」 重点目標 子どもたちも教職員も元気な学校	西小にこにこプロジェクト(チャレンジ目標)			
	場面	進んで学ぶ子ども	たくましい子ども	思いやりのある子ども
	授業	・ゆっくり、みんなに聞こえる声で話そう。	・自分の意見をわかりやすく話したり、書いたりしよう。	・話している人の方に体を向けて、話を最後まで聞こう。
	休み時間	・チャイムが鳴り終わるまでに、必要な物の準備をして自分の席にすわろう。(教科書、ノート、筆箱など)	・ルールを守って、体を動かそう。	・廊下や階段は静かに歩いて移動しよう。 ・次の人のことを考えてスリッパをそろえよう。
その他	・放送は動きを止めて、静かに聞こう。 ・静かにそうじをしよう。	・給食は食べられる量を自分で決めて食べよう。	・いつでも、どこでも、だれにでも自分からあいさつをしよう。	

豊かな人間性 (思いやりのある子ども)
 思いやりの心を持って人と関われる子ども

- 他者との豊かな人間関係を形成するためのコミュニケーション能力の育成を図る
- 自他を大切にできる心情や態度の育成
- 学び合う仲間づくり
- 行事や体験活動、道徳授業の充実

健康・体力 (たくましい子ども)
 心身を鍛え目標に向かって前進する子ども

- 心身ともに健康な生活を営むことができる基本的な生活習慣の育成 (早寝・早起き・朝ごはん)
- 体力づくりの企画・提案
- 体育行事を通しての体力向上

資質・能力の育成 (進んで学ぶ子ども)
 自ら考え判断し、進んで表現する子ども

何ができるようになるか
 ○学校教育の基本

- 学び合いを通して、自分の考えを広げ深め、自らの課題を解決することができる
- 身につけた知識やスキルを、他教科や生活で生かすことができる
- 主体的・協働的に学び自他のよさに気づく

何が身についたか
 ○学習評価を通じた学習指導の改善

- 自ら学ぶ力を備え、基礎基本が身についている
- 主体的に考え、自分の考えを表現しようとしている
- 学びを深め、学年に応じた論理的思考力を身につけている

【子どもの実態】

- 素直で明るく元気に活動できる
- 少人数学級のため、人間関係が固定化しがちである
- 積極的に表現できる
- 授業を前向きに受けている
- 外で元気よく遊んでいる

子どもの発達をどのように支援するか
 ○配慮を必要とする子どもへの指導

- 西小にこにこプロジェクト
- 個に応じたきめ細かな指導
- SC、SSW、教員補助、関係機関、保護者、地域と連携
- 教職員間で情報共有・協働支援 (毎週末の児童理解)

【めざす子どもの姿】

- 誰にでも元気よくあいさつできる子
- 進んで学ぶ子
- ともに高め合える子
- 自分と人を大切にする子
- 自分の思いを伝えられる子

何を学ぶか ○教育課程の編成

- 基礎学力の定着 (読む、書く、説明する)
- 道徳教育・人権教育・環境教育 (SDGs)
- 家庭学習の充実
- 学びの連続性を重視した教育の推進 (小中一貫教育)

どのように学ぶか ○教育課程の実施

- 「わかる授業」と「めあてとふりかえり」の習慣化
- 特別支援教育の視点を取り入れた授業改善
- ICT機器の効果的活用
- 地域の人的・物的資源の活用
- BGR学習

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- わかる授業の実践
- 校内授業研究と校外研修の推進
- 田布施中学校区小中一貫教育の推進
- 読み聞かせ (花アカシアの会と連携)
- 体験活動 (西の寺子屋と連携)
- ICT機器の活用 (持ち帰り)
- 家庭・地域と情報共有及び連携・協働
- 子どもと向き合う時間の確保

安心・安全を守る

- 自分の命は自分で守る健康・安全教育の推進 (安全教育、防災教育、健康教育)
- いじめのない安心して生活できる教室、学校 (人権教育)

開かれた学校づくり

- 学校運営協議会、PTA・おやじの会との連携
- 学校だより、学校HP、安全メールによる情報発信
- 地域をキャンパスとした実践的な教育活動 (地域の人材・地域の教材の活用や諸団体との協働)